

協議会の活動

発行:一般社団法人栃木県老人保健施設協会広報委員会

平成25年度 第1回職員研修会が開催される

- 日時：平成25年9月11日(水) 10時00分
- 会場：とちぎ福祉プラザ（宇都宮市）



午前の部

研修委員会による「第1回職員研修会」が9月11日(水)とちぎ福祉プラザで開催され、県内各地より46施設142名の多職種の職員が参加いたしました。

研修委員長の挨拶の後、午前の部は各施設からの事例発表、午後の部はグループ別意見交換の内容で有意義な研修会となりました。

【事例発表】

- ①「入所利用者の笑顔がみたい～学習療法を試みて～」
【とちの実】
- ②「日記帳記入を取り入れた利用者の変化」
【しらさぎ荘】
- ③「認知症の入所者の褥瘡発症から治癒までの関わり～ケアプランにDESIGN-Rをとり入れた効果～」
【しらさぎ荘】

- ④「個別ケアにおける生活リズムの改善と取り組み」
【あそへルホス】
- ⑤「介護老人保健施設における長期入所者の生活意欲に関する質的研究～入所後2年以上経過した長期入所者の思い～」
【同仁会】
- ⑥「在宅復帰に向けてのオムツ交換パンフレット作成」
【かみつが】
- ⑦「節電へのチャレンジ」
【かみつが】
- ⑧「エブリデイ・ウォーキング（毎日、楽しく歩いていこう）」
【陽 南】
- ⑨「呼吸介助と呼吸体操による肺炎予防の取り組み」
【マロニエ苑】
- ⑩「職員のレクリエーションに対する意識調査と取り組み～利用者もスタッフも楽しむ工夫～」
【ひまわり荘】
- ⑪「胃ろうから経口摂取 オムツからトイレとなったAさん～家族の思いに応えて多職種連携で学んだこと～」
【ひまわり荘】
- ⑫「ケースカンファレンスの充実を目指して」
【いずみ】
- ⑬「居室内自立を実現した伝い歩きによる自立練習部屋の取り組み」
【ヴィラフォーレスタ(森の家)】

事例発表では、年々増加する高齢者の認知症に対し、学習療法や日記帳を活用した認知症の改善・予防の発表、また、褥瘡対策やリハビリテーション及びレクリエーションを通じた生活改善の工夫、入所の長期化と在宅復帰の推進のための取り組みが発表され、会場からの質疑もあり予定時間を延長する盛会の研修会になりました。



午後の部



昼食休憩後、「グループ別意見交換会」が行われました。参加者142名は介護、看護、リハビリ、ケアマネージャー、栄養士、相談員などの職種ごとに19のグループに分かれ、各職種ごとに提出された課題について意見交換を行いました。

課題は食事・入浴・排泄などケア全般に加え、認知症ケア、レクリエーションの内容、転倒予防、身体拘束、褥瘡ケア等様々な課題がありました。参加者は課題について、自施設での対応例を挙げながら詳しく説明していました。グループ内からは共感の声や助言など、意見が交わされていました。初めはぎこちない感じで始まった意見交換会ですが、意見を交わすにつれ和やかな雰囲気になり、笑顔もみられるようになりました。

参加した施設では、現状のケアに満足することなく利用者本位のケアを求め、様々な取り組みを行っていました。このような情報交換がきっかけとなり、各施設がより良い医療・看護・介護サービスを提供していくことが望めます。今回の意見交換会も各施設にとって大変有意義なものとなったのではないのでしょうか。

